

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年2月24日

[テーマ] 前橋市の観光パンフーおもてなしに活用—

昨年秋にリニューアルされた前橋市の観光パンフレット「k u r u n」がとても気に入っている。説明によれば、『思わず手に取りたくなる』『行ってみたいくなる』をコンセプトに、前橋の魅力を伝えるインパクトのある写真を使ったデザイン性の高い新しい観光パンフレット』とのこと。その通りである。

従来のパンフレットは大手の旅行ガイドブックと提携した冊子で、市内の観光地が網羅されていることから、それはそれで大変便利であった。転入者である私は暇を見つけては家族と共に掲載先を訪ねており、これまでの訪問率は8割を超えていると思う。

ただ、ちょっとした用事で前橋を訪れている人からすると、掲載スポットの数が多過ぎて、使いづらいものとなっていたかもしれない。「k u r u n」は、まるまる1ページに60年以上の歴史を持つ大手町の遊園地「るなぱあく」や千代田町の商店街「弁天通り」の写真に掲載するなど、A4版30ページの紙面に掲載されているスポットがかなり絞り込まれている。その分それぞれにストーリーがあって、前橋の魅力がちゃんと伝わってくる。

聞くとところによると、「k u r u n」は昨年末、地域活性化センターが実施している「第4回ふるさとパンフレット大賞」で『地域活性化センター賞』を受賞したようだ。

同センターは都道府県や市町村の観光・イベントなどのパンフレット約2600種類を対象に提供部数の多い人気パンフレットランキングを毎年発表しているのであるが、ランキング上位を有名観光地が独占している状況を見かねて、2013年度から新たな賞を設け、優れたセンスで地域情報を発信しているパンフレットを表彰しているとのこと。自分が本当に求めるモノやサービスを自らの基準で選択して購入するという時代にふさわしい、素晴らしい試みだと思う。

それはそれとして、私は最近、前橋を訪ねてくる友人・知人たちに「k u r u n」を事前に送るようにしている。こちらに向かう車中で目を通しておくように伝えておけば、出会った時の彼らの第一声は「どこで焼きまんじゅうを食べようか?」。これで私のもてなしは8割が成功となる。

そうした成功体験を重ねて調子に乗った私は、先日、黒田東彦日銀総裁が前橋を訪れた

際にも「k u r u n」を利用した。総裁の市内滞在時間はごく短い。地域経済視察のためやってくるのだから、観光のための時間はない。これこそ「k u r u n」の出番である。事前情報を基に、総裁には前橋の焼きまんじゅうや地酒を支店職員との懇談の場で楽しんでもらった。また何かの時に思い出して前橋を再訪してくれるだろうと期待もしているところである。

〔 日本銀行前橋支店長  
          神山 一成 〕